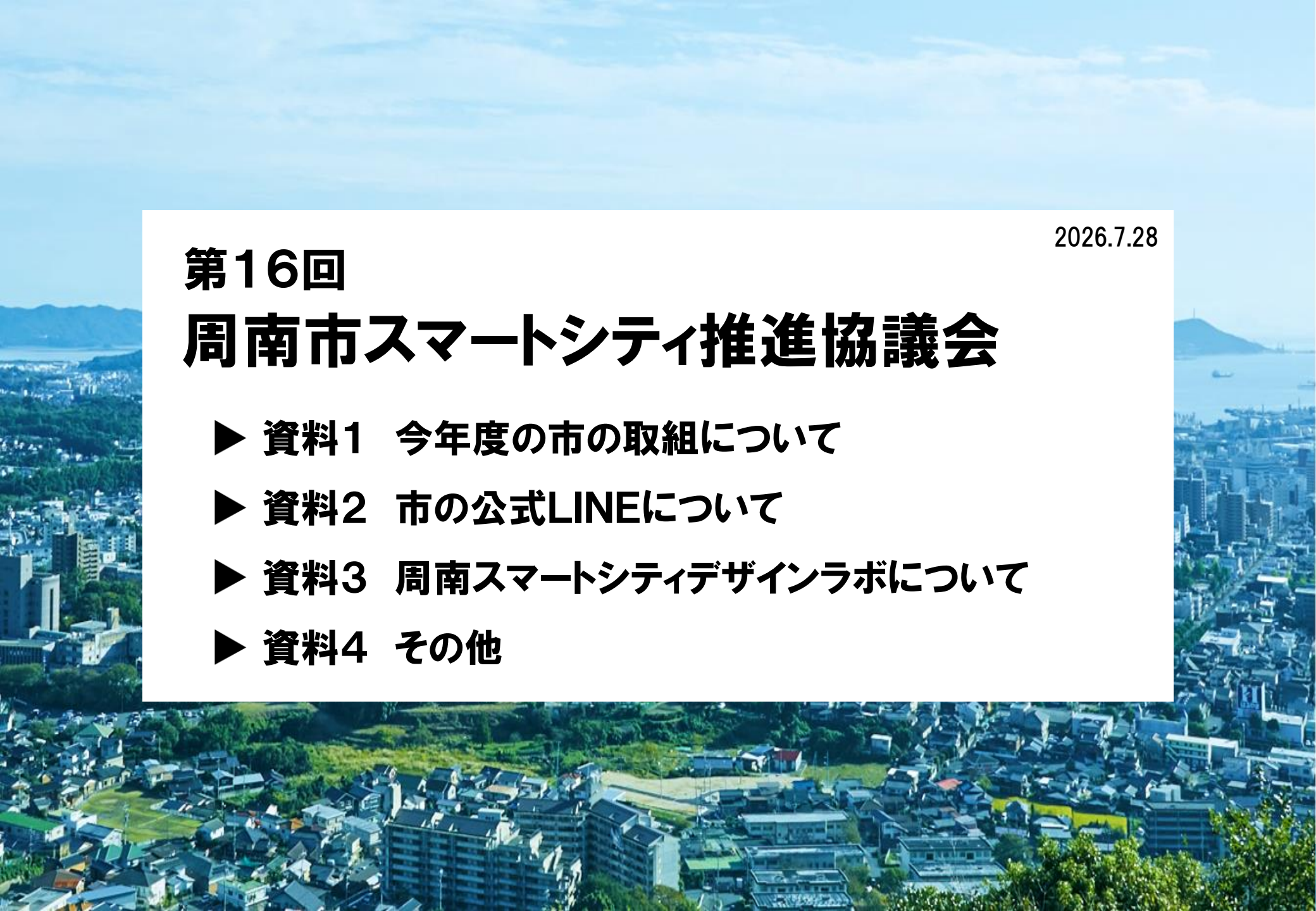




2026.7.28

第16回

周南市スマートシティ推進協議会

- ▶ 資料1 今年度の市の取組について
- ▶ 資料2 市の公式LINEについて
- ▶ 資料3 周南スマートシティデザインラボについて
- ▶ 資料4 その他

資料1

今年度の市の取組について

令和8年度デジタル関連の市の取組（1／2）

※令和8年度新規・拡充する取組のうち、市民に影響がある取組を抜粋して掲載

運用中：市民や職員がサービスを利用できる状態
着手済：必要な手続等に着手している状態
検討中：事業について検討を行っている状態

分野	取組	概要	状況
安心安全	1 スターリンクの導入	災害時の孤立集落対策として、通信手段の確保を図るため、衛星インターネット通信機器である「スターリンク」を配備する。	着手済 R8年度中に運用開始予定
	2 マイナ救急システムの拡充	傷病者の救命率の向上及び予後の改善を図るため、既往歴等の聴取が困難な状況下でも、マイナ保険証から得られる医療情報を活用し、迅速な応急処置と医療機関選定が可能となるよう運用体制を構築する。	運用中 R8.4～
医療・福祉	3 オンライン診療導入診療所の拡充	医療資源の少ない地域において、地理的な制約を解消し、持続可能な医療提供体制を確保するため、オンライン診療体制を整備する。	着手済 R8. 9以降運用開始予定 ※大向巡回診療所（向道郵便局）
	4 福祉医療費助成のマイナンバーカードを活用したデジタル化の推進	マイナ保険証を利用している福祉医療費受給者が、マイナンバーカード1枚で医療機関を受診可能となるための環境を構築する。	着手済 R8年度中にシステム改修予定
学び・子育て	5 オンライン問診を活用した5歳児健康診査の開始	5歳児健康診査の工程の一部にオンライン問診を導入し、市民の利便性の向上及び業務の効率化を図る。	運用中 R8.6～
	6 生成AI学習アシスタントアプリの導入	学習用に特化した生成AIアプリを導入し、生徒の主体的・対話的な学びの質向上、個別最適な学習支援、学習意欲の向上等を図る。	運用中 R8.5～
	7 デジタル採点システムの導入	AI技術を活用したデジタル採点システムを導入し、定期テスト等の採点業務の効率化、評価の公平性向上、生徒個別の答案分析に基づく学習支援の充実を図る。	運用中 R8.4～

令和8年度デジタル関連の市の取組 (2/2)

※令和8年度新規・拡充する取組のうち、市民に影響がある取組を抜粋して掲載

運用中：市民や職員がサービスを利用できる状態
着手済：必要な手続等に着手している状態
検討中：事業について検討を行っている状態

分野	取組	概要	状況
観光 交流・ 文化	8 民俗資料展示施設のデジタルミュージアム化	資料館内に設置した説明文に記載した二次元コードからアクセスしてもらうことで、資料の詳細な解説等が入手できる環境を構築。	着手済
	9 博物館所蔵資料のデジタル化	博物館資料をデジタル化して保存(デジタルアーカイブ化)し、インターネット等を通じて公開する。	着手済
	10 美術博物館オンライン講座の実施	WEB会議サービスを利用し、学芸員などの専門職員によるリアルタイムの解説動画配信を行う。	着手済 R8.9～実証事業実施予定
	11 動物園入園料のキャッシュレス決済導入	来園者の利便性向上および現金取扱に係る窓口業務の効率化を図るため、キャッシュレス決済を導入。	検討中 R8.10以降の導入を検討中
行政	12 AI音声を活用した広報紙の音声化	広報紙をAI音声で自動読み上げ可能とするとともに、多言語表示に対応することで、視覚障がい者や高齢者、在住外国人など多様な市民が市政情報へアクセスしやすい環境を構築する。	運用中 R8.5～
	13 訪問調査タブレットの導入	訪問調査管理システムとタブレット端末の導入により、業務効率化と介護認定決定の迅速化を図る。	着手済 R9.1以降運用予定

令和7年度からの取組

産業	周南市中心市街地人流データ分析業務	AIカメラを使用して中心市街地内の歩行者及び自転車の通行量を計測し、データを収集・蓄積するとともに、市民団体等が行う地域の活性化につながるイベント等の企画立案やその効果検証に役立てる。	運用中 R7年度～
----	-------------------	--	--------------

資料2

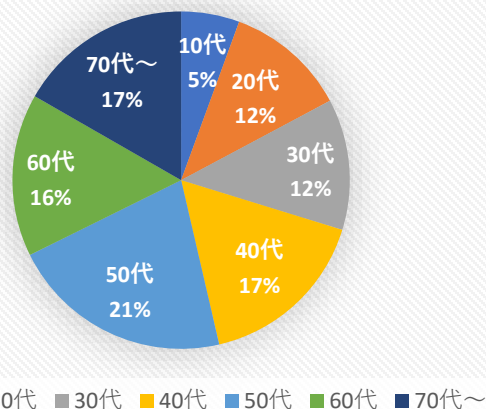
市の公式LINEについて

市の公式LINEについて

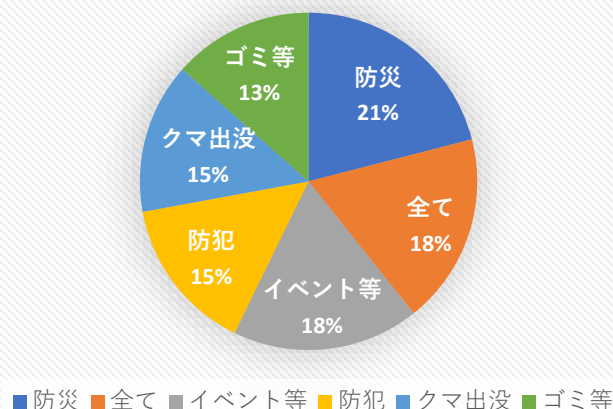
登録者数約52,000人（R8.7.7現在 市公式LINEに友だち追加し、受信設定が周南市内の方）



登録者の年齢層



受け取りたい情報(上位6項目) 情報発信の状況(抜粋)



発信内容	発信件数
イベント・観光	36
大津島巡航	20
クマ出没情報	19
こども・子育て	9
防災（R8.4.1～）	9

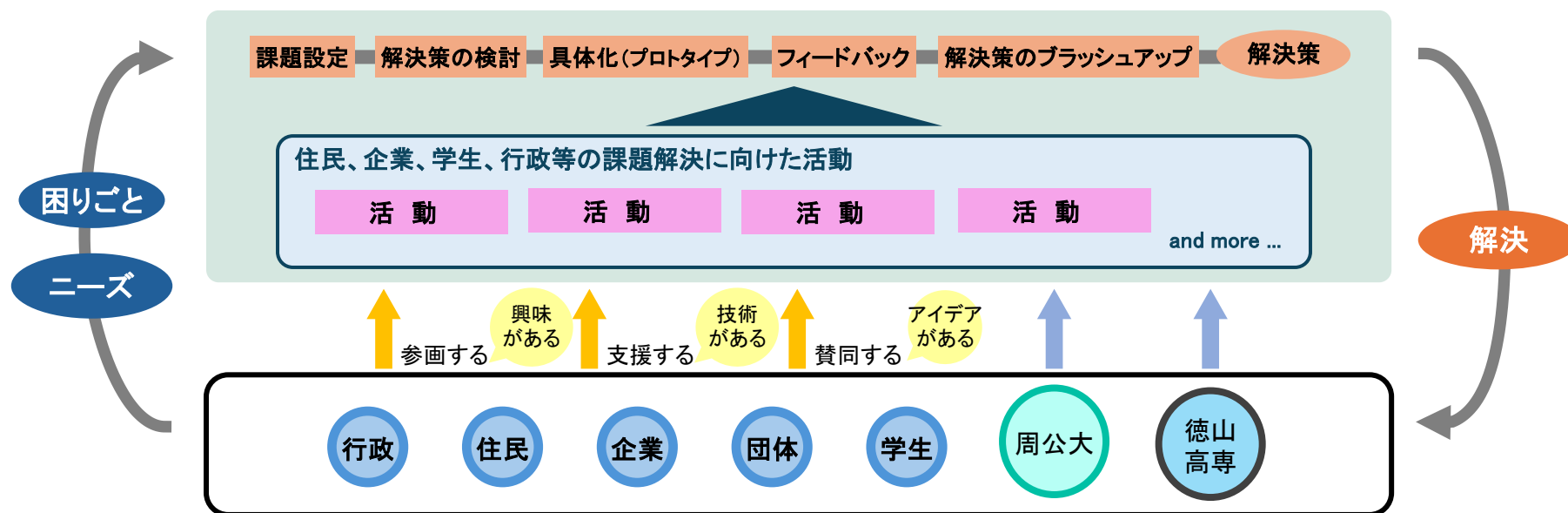
資料3

周南スマートシティデザインラボについて

周南スマートシティデザインラボが目指す姿

この仕組みが目指す姿は、**継続的な課題解決に取り組むためのプラットフォーム**

➡課題を持つ人、アイデアを持つ人、技術を持つ人、動ける人、お金を出せる人などの**多様な主体がオープンな場に集まり、利用者目線で全体を俯瞰しながら課題解決を図るプラットフォーム**



これまでのアプローチ

- ▶ 小さくて細かい課題が置き去り
- ▶ 個別最適にとどまり不十分な解決になる

想定される変化

- ▶ 小さくて細かい課題から分野をまたぐ複雑な課題までアプローチ可能になる
- ▶ 課題により適した解決策が得られやすくなる
- ▶ 活動を通して、新しいコミュニティやネットワークが構築される
- ▶ 成功体験を積むことにより、行動変容が起き、自ら考え行動する人が増える
- ▶ まちづくりに参画することで、まちへの愛着等の醸成につながる

令和7年度周南スマートシティデザインラボで検証項目の評価

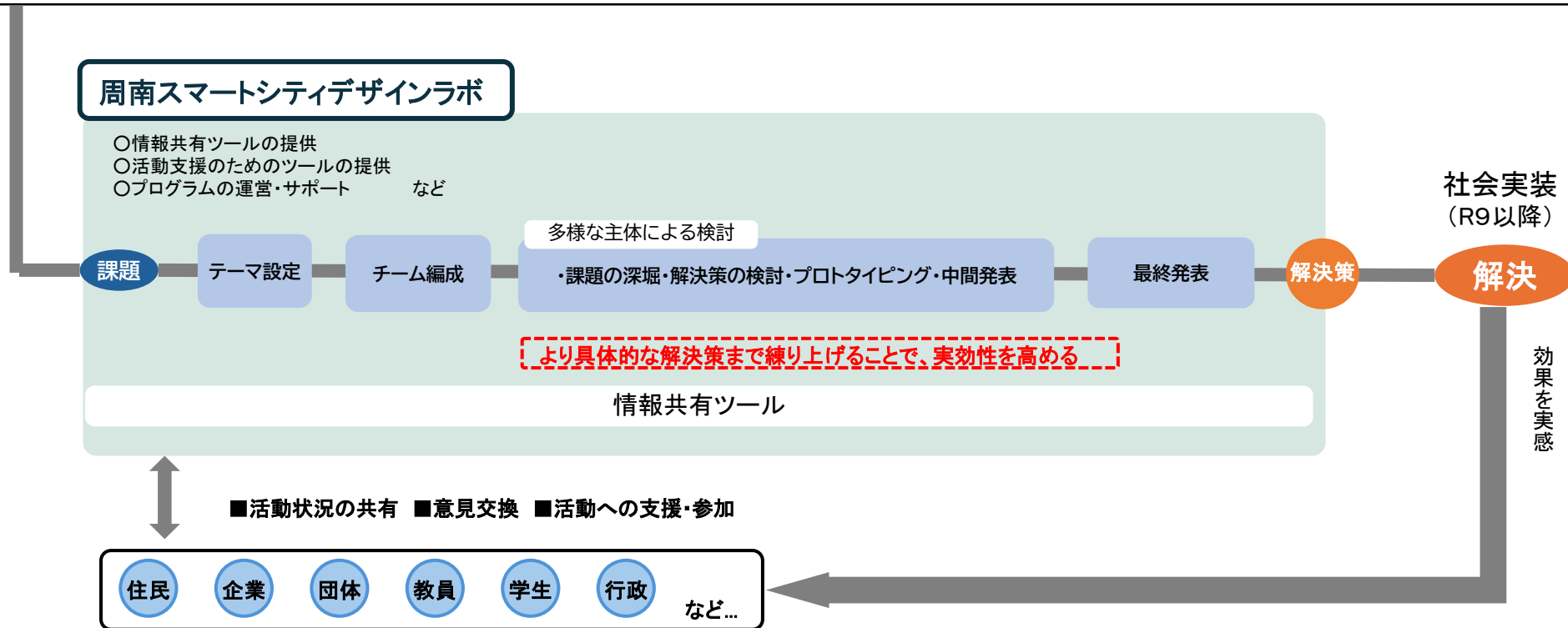
検証項目	評価
中間発表会、最終発表会で発表された成果は、ユーザーにとっての価値が示され、将来の社会実装や課題解決を見据えた内容になっているか。	発表された成果は、ユーザー像を明確にする、将来の社会実装を見据えた発表を行うことができたことから十分な活動成果が得られた。
プログラムのプロセスに市民を適時巻き込み、各チームの提案に対してフィードバックいただくことでデザラボへの共感・理解を得ることができたか。 (フィードバックはインタビューなどの質的調査、アンケートなどの量的調査の両側面から得ることを想定)	ユーザーインタビュー、ユーザーを対象としたプロトタイプの実施により、質的調査を行うことができたことや、発表会の際に実施した、アンケート結果から市民からの共感・理解が得られた。
デザインラボについて市民に情報発信を行い、ライトな関わりしろをつくることで、市民がデザラボを知る機会を設けることができたか。	Instagram のフォロワー数は26 名で、大きく伸ばすことはできなかった。令和8年度は更新頻度を高める等の工夫が必要になる。
活動主体の一員として参画したメンバーが、課題を解決したいモチベーションを持ち、自身だけでなく知人の参画を促したいと感じたか。	活動終了後の活動主体を対象としたアンケートを実施した。 参加した事業者や学生の満足度が特に高く、参加前よりモチベーションが上がり、知人への参画を促したいとの回答が得られた。

周南スマートシティデザインラボの令和8年度の概要

1年間で課題解決までの一連のサイクルをまわして、令和9年度以降に社会実装が狙える解像度まで解決策をブラッシュアップする。

課題:若者の定着

(概要)周南市に現在いる若者(高校生、徳山高専生、周南公立大学生等)が周南市に定着するために必要な施策の検討



周南スマートシティデザインラボで取り組み中のテーマ

テーマ	活動主体	概要
周南公立大学生が市内で働くために	事業者 周南公立大学 職員 市職員	周南公立大学生が自分らしい人生を送るための手段の一つとして、卒業して最初の就職先に周南市内に事業所のある会社への就職を選択してもらうための方策の検討をする。

※活動主体のほか、専門的知見を持つアドバイザーや周南公立大学経済経営学部地域イノベーションセンターの教員もデザインラボに参画しています。

周南スマートシティデザインラボ 実施状況

課題ホルダー向けプログラム

- 開催日 令和8年5月29日（金）
- 開催場所 周南市役所 会議室
- 実施内容 テーマ設定
本質的課題の探求（システム思考・デザイン思考を活用）



第1回プログラム

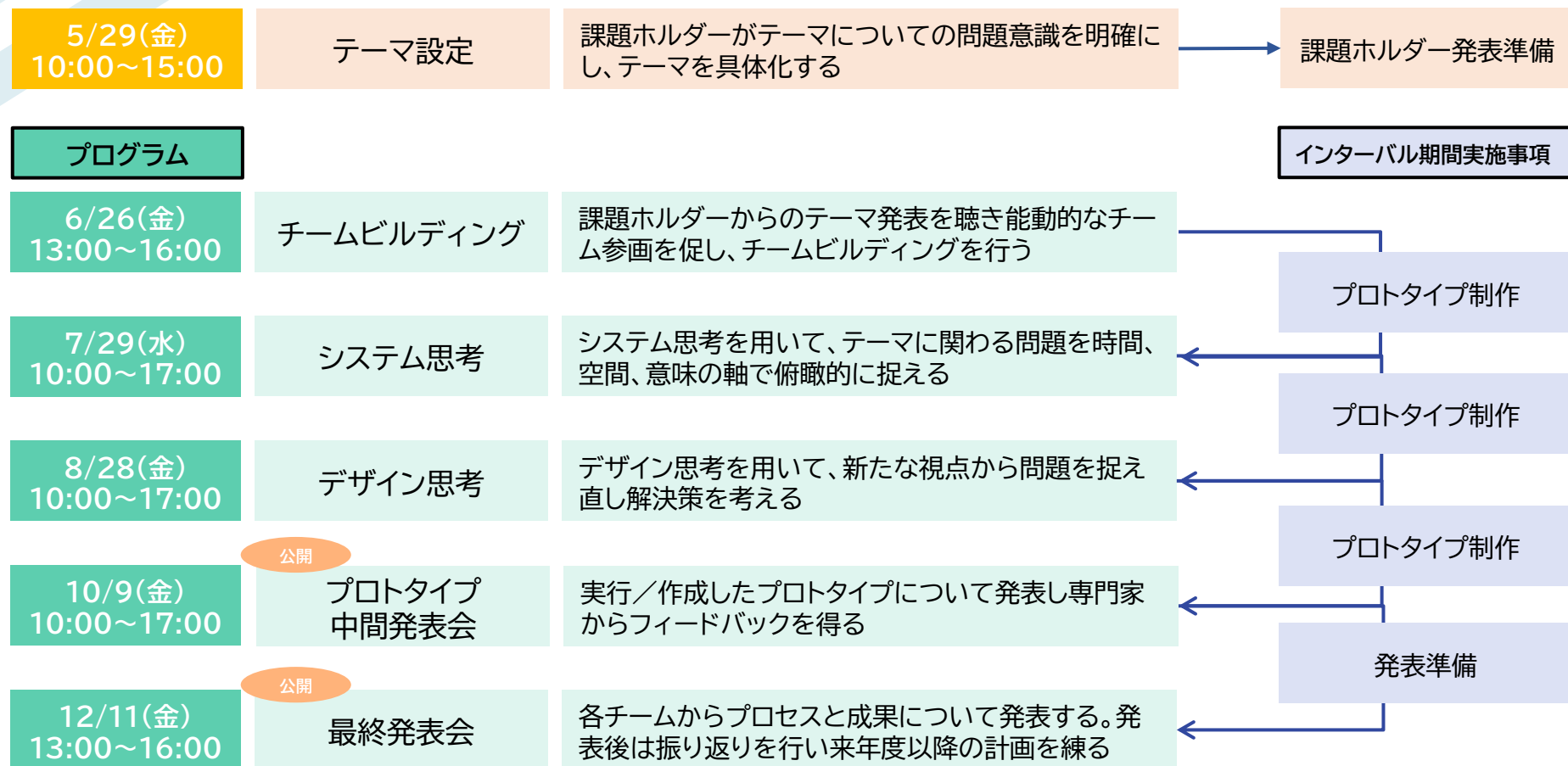
- 開催日 令和8年6月26日（金）
- 開催場所 周南市役所 会議室
- 実施内容 テーマの方向性を共有（テーマ設定の経緯や、ペルソナを対象に行ったインタビューから明らかになった事実を共有）
チームビルディング

周南スマートシティデザインラボInstagramにおいて、活動状況を発信しています。



SHUNAN_SC.DESIGN.LAB

令和8年度デザインラボスケジュール



資料4

事務連絡 (その他の取組)

<参考資料>データ利活用に向けた取組について

オープンデータの取組

国が公開を推進するデータ（標準データセット31種）や市が保有するそれ以外のデータを積極的に公開することで、民間企業や団体等がそのデータを効果的に活用し、まちづくりなどに生かしていく。

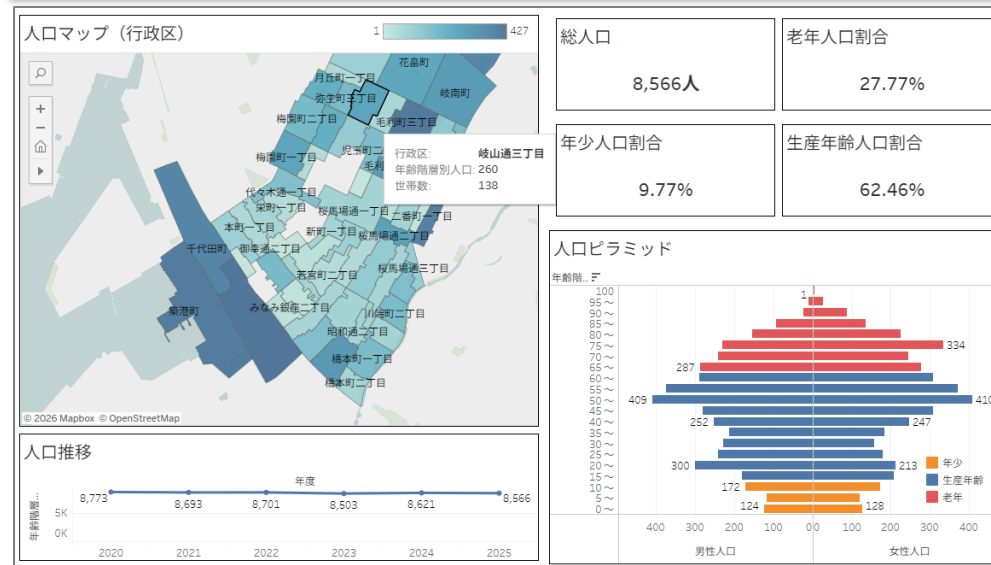


山口県オープンデータカタログサイト(小学校の安全マップ)
 【URL】 <https://yamaguchi-opendata.jp/dashboard>

BIツールの活用

BIツールを活用しながら職員のデータリテラシーのスキル習得を目指すと共に、データを可視化することで、EBPM（客観的なデータに基づく政策立案）の推進や、まちづくりに生かしていく。

※BIツール：データ可視化ツールのこと。本市ではタブローを活用。



タブローパブリック(周南市の中心市街地における人口ダッシュボード)
 【URL】 <https://public.tableau.com/app/profile/.23866707/vizzes>

<参考資料> 地区LINEについて

スマートシティ推進のモデル地区である周陽・遠石地区において、令和5～6年度にかけて、公式LINEによる情報発信の実証を行った。

デジタルツールを用いた情報発信について、住民から相談があった場合の参考とし、地域におけるデジタル化を円滑に進めることを目的として、市民センターに本実証結果をまとめたものを共有した。

【モデル地区】

スマートシティの推進において、複数分野において地域課題の解決や新しいサービス創出に資する取組等を行い、他地区への横展開を図るために選ばれた特定の地区（周陽地区と遠石地区）。

モデル地区における情報発信等に関する公式LINEを活用した実証結果 令和8年7月版 支所・市民センター等職員向け資料

デジタルツールで情報発信してみました

スマートフォンのアプリを使って、周陽・遠石地区で情報発信をデジタル化する試みを行いました。

こんな場面で活用しました

- * 市民センターだよりなどの広報紙の配信
- * イベント情報の配信 例) 地域食堂、季節のお祭りのお知らせ、イベント開催状況の報告(動画)
- * 自主防災連絡協議会からの配信 例) 避難所開設のお知らせ、防災訓練のお知らせ など

“紙”と比べた“デジタル”の特徴

- * リアルタイム性 発信したいときすぐに発信できます(例:イベント中止の連絡)。
- * 情報への到達容易性 いつでもどこでも、新しいことも古いことも、スマホで検索できます。
- * 柔軟な情報管理 規格に縛られず、情報量(複数の画像、動画等)が多くても扱えます。
- * コストの削減の可能性 印刷代や郵送費、回覧に係る人的コストを削減できる可能性があります。

デジタル化する前に決めたこと

- 運用ルール(実証結果P6～11)
誰が・どんなことを・どのくらいの頻度で配信するかなどの運用ルールや、配信にあたっての禁止事項を定めました。
- 使用するデジタルツール
配信する側の扱いやすさはもちろん、配信したい内容や受信者の世代なども考慮してツールを選択しました。
- 費用感を算出(実証結果P10、12～13、15)
地域の予算で運用できそうか、ツールや料金プランを検討しました。

LINE公式アカウントについて

企業や店舗等がコミュニケーションアプリ「LINE」上で作成できるビジネス用アカウントです。
友だち追加してくれたユーザーに直接情報を届けることができます。

参照 <https://www.lycbiz.com/jp/column/line-official-account/technique/20231108/>

(参考イメージ) 周南市公式LINE

～モデル地区における情報発信等に関する公式LINEを活用した実証とは～
市では、スマートシティ推進のモデル地区である周陽・遠石地区において、令和5年度から令和6年度までの2年間、LINEの公式アカウント(試行版)を立ち上げ、地域情報の発信等について実証を行いました。このたび本実証の結果をまとめたので、ぜひご覧ください。

〈問合せ先〉

- 令和5、6年度のモデル地区における公式LINEを活用した地域情報等に関する実証結果について
周南市スマートシティ推進課(TEL 0834-22-8263)
- 情報発信のためのサービスに関する情報提供について
周南市地域づくり推進課(TEL 0834-22-8412)

市民センター主事会議で共有したチラシ